

平成 28 年度全国指導者選手合同合宿関西会場報告
日時：2017 年 1 月 28～29 日（土～日） 場所：花園大学

平成 28 年度全国指導者選手合同合宿関西会場は、選手・指導者を合わせた申込者約 150 名で実施いたしました。

初日は開講式の後、導入として参加者全員でアイソレーションを行いました。



その後に、伊藤厚正先生による器械体操講習が開かれました。前半は解剖学・運動生理学の理論に基づいた身体・トレーニングに関する講義が行われ、その上で参加者が実際にトレーニングを行いました。普段の新体操の練習では行わないような、ティッシュを使用した動体視力を鍛えるトレーニングなどもあり、参加者のジュニア選手たちは楽しく受講していました。器械体操の基礎としては、前転・後転・倒立・バク転を中心とした内容でした。ここでも、バク転を速く行うためのトレーニングなど、新体操ではあまり実施することのない方法論が教授され、参加者にとって非常に勉強になるものでした。



次に、「ルールから攻める男子新体操」と題した新ルール講習が安福康夫先生によって行われました。この講習は、競技を行っているもののルールを十分には把握していない選手の理解を深めるため、そして、指導者の先生方が審判側の意識などを直接質問できる機会を設けるために開催しました。新体操のルールは複雑で、ルールを適切に理解出来ていない選手も少なからず存在します。また、とくに地方で指導を行っている指導者の方々は、どのような演技が評価されやすいのかなどといった点について直接審判と話せる機会が必ずしも多くありません。それらの問題を少しでも解決するために、当講習を今回開催することにしました。講習の成果としては、どうすれば試合の点数を上げることが出来るのかが参加者の間で一定程度共有されたと思われま



参加した指導者からは「こういう講習を待っていました」「現場と審判の考え方の違いがわかりました」「今回は技の話が中心でしたが、現場としては動きも時間をかけて練習しているので、次回は動きの話ももっと聞きたいです」などの感想も寄せられました。今後は他の会場でもこうした講習が開催されたり、講習の内容を動画などで配信したりすること、あるいはルール自体をアプリ化・電子化するなどしてアクセシビリティを高めることが、競技普及のためには望ましいと個人的には感じました。

2日目は、準備運動の後、指導者を対象に新体操クラブマネジメント講習が臼井俊範先生によって行われました。大垣共立銀行 OKB 体操クラブの事例などをもとに、財政面や制度面などの視点からクラブチームの運営のあり方が解説されました。参加された指導者の方からは「小さい体育館でも良いから建てるのが出来ないか、と考えるきっかけになりました」「私は現職の教員ですから立場は違いますが、待っているだけではダメで、積極的に自分から今できることをやっていかなければいけないと思われました」などの声が寄せられました。



同時刻に、選手を対象にした初級・中級・上級コースにわかれた新体操実技講習が開催されました。初級クラスでは、森澤翔先生を中心に、昔話などをモチーフにしたユニークな方法で、身体表現の基礎が教えられました。



中級クラスでは、坂本匡先生を中心に、手具操作や投げ技などが教えられました。



上級クラスでは、新体操界を牽引するトップ選手である白井優華君や小川晃平君を中心に、タングリングと参加者各自の演技に関する実践的な指導が行われました。



午後は選手・指導者いずれも参加するクラシックバレエ講習が齋藤愛見先生により開催されました。姿勢や表現に関わる理論・実践両面にわたった内容であり、参加者は技術などだけを表面的に教わるのではなく、深い理解を促されたことと思います。新体操はしばしばタンブリングなどの技術的な次元に比重が偏りがちであるため、身体の動かし方や表現に重点を置いたこのような講習は、表現者としての自覚を促す非常に意義深いものであると感じました。先生のオーラとエネルギーに満ちた講習で、およそ2時間の講習時間があっという間でした。





今回の合同合宿は、徳島、鳥取、長野など遠方からも多数の参加者にお越しいただき、新しい出会いや交流の機会にもなったのではないかと思います。合宿で学習した内容が活かされ、今後さらなるレベルアップにつながることを祈っています。

(文責：野田光太郎、写真：臼井俊範・前田節夫)